

<連載 15>

過度の「依存」は辞めよう！ 過ぎたるは及ばざるがごとし
～こんな時代・社会だからこそ、みんなをよく考えて、必要な改革を進めよう！

理事長 高見 優

◇総代選挙が終わり新しい総代が選ばれました（選管「公告」が掲載）。前号にも書きましたが、協同組合は組合員による組合員のための組織であり、組合員の代表（総代）で構成される総代会が最高意思決定機関です。私たち役員も総代会で選任され、法令・定款や総代会の決議に従って組合員のために職務を執行します。

そのことは国や自治体でも同様で、民主主義の理念に基づく制度だと思います。憲法や法律で、私たちは主役・主人公であるとされ、政治・経済・社会に対して自由に意見を述べ直接参加するなど行動を起こすことができ、選挙権だけでなく被選挙権を行使することもできます。

しかし今の社会において、私たちはこの理念・制度を十分に使いこなせているかと問えば、やや疑問があります。近年の各種公職選挙の投票率の低さ、社会問題に対する市民の発言の多くは「愚痴」「批判」「否定」ばかりで、「他人事」のようです。もちろん、最近の企業経営者や政治家・政党、公務員などの不祥事（？）には目に余るものがあり、そう言いたくなるのも無理はないと思いますが…。それでも私たちは、当事者であることを忘れてはいないか、よく考えてみないといけないと思います。

◆「ぼくらはみんな 生きている …ミミズだって オケラだって アメンボだって…みんな みんな生きているんだ 友だちなんだ……」（手のひらを太陽に）やなせたかし作詞・いずみたく作曲）～いい歌ですね。

最近大きい問題になった「わきましろ」発言。これは「〇〇のくせに」ということでしょうか。それに対して、私はすぐにこの歌が頭に浮かびました。「〇〇だって」みんな生きているんだー、と。（〇〇には、性や人種、特性…など何でも入ります。）

社会のさまざまな差別や偏見、生きることさえ困難にされる状況、みんな自分のことで大変にさせられている今の社会、何かが・どこかが変です。人間だけでなく他の生物・自然環境、そして地球そのものが危機です。人類文明のあり方が、社会だけでなく、ついに地球（＝この世）の存続が危うい事態にまで来てしまったのです。

◇では、どうすればいいのか？ ここでは私は一言だけ述べます……「過度の依存を辞めよう」と。

「ささえあいの社会をつくろう」と言ったのではないかとされるかも。確かに「ささえあい」社会は分業で成り立ち、ある程度はお互い他者に「依存」することになります。年齢や障がい、経済的等々の社会的弱者は生存権・社会権として当然ケアされるべきですが、それでもなおすべての人にはやれることがあり、相互的關係を築くことができるはずですが。

私が言いたいのは、必要以上に「依存」しすぎているからそれを止めようということです。自分で判断し決めなければならないことさえも、他者に委ね任せてしまっているのが、現代社会の私たちではないかと思うのです。

「依存症」という病気の苦しみがあります。アルコール、覚せい剤、ギャンブル、スマホそしてクレプトマニア（窃盗症）など。どれも本人のみならず家族など周りの方も大変らしいです。

でも、現代社会には別の大きい「依存症」がある。それは、お金・商品です。私たちは、生活上ほとんどすべてをお金で買っている、衣食住からモノ・サービス、安全・安心そして労働力までも。石油などのエネルギーや食料などを輸入し依存している。ダムや原発、防衛装備……。そして、いろんな社会のシステム～家庭や職場、地域や国家なども他者に任せ、お任せ民主主義、観客民主主義と呼ばれるような形になっていないか？

それを改めようと考えて、まず私たち自身が「協同労働」で仕事をおこし、「地域の困り事」に応え続けてきました（新潟日報3/1号）。本年度ささえあい生協は、国の委託「就職氷河期世代活躍支援事業」に選定され事業開始します。

組合員・読者の皆さん、総代、役員職員の皆さん、ささえあい生協の前途、いやこの社会・今の時代そして地球の前途を、一人ひとりが考え、行動する時が来たのです。

当生協の本年度（2021年度）予算は初めて10億円を超えます。仲間（組合員）を増やし、出資金を増やし、それを元手に皆さんと一緒にできることから始め、地域で役立つ新たな仕事を増やしていきましょう。過度に依存しない、自立した地域にしていくために……。

（ご感想・ご意見をお寄せください：編集部）
（前号の本欄は「連載14」でした。お詫びして訂正します。）